

令和6年度 (宮城教育大学附属特別支援学校) 学校の研究概要 ～令和7年1月末現在～
運営委員氏名 (菅原しのぶ、梅津直哉)

研究テーマ	<p>「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり ～「経験」から「理解」そして「学びの自己調整」へのプロセスを通して～（3年目） ※本年度の公開研究会後は新研究立ち上げに向けた構想期間として取り組んでいます</p>
研究の目的	<p>「個別最適な学び」を実現するために必要となる、授業づくりの視点を明らかにするとともに、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」に基づいた授業づくりのプロセスとその有効性の検証を行う。</p>
研究内容 ・方法 研究計画等	<p>1) 研究期間：令和3年度から3年間 2) 内容と方法（本年度は3年次までの取組の発信と成果の検証を主に行った） 【1年次】（R3年度）指導の個別化 1 「授業づくりシステム」の作成と活用 2 「教師の学び合い」を生かした授業づくり 3 「個別最適な学び」を目指した授業実践 【2年次】（R4年度）学習の個性化 1 「学習の個性化」の視点を踏まえた授業づくり 2 「授業づくりシステム」改め、「M-FOCUS」としての機能の充実 【3年次】（R5年度）学習者自身による学びの自己調整 (R6年度)公開研究会（最終報告）</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>○研究経過</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月：公開研究会 「学習者自身による学びの調整」に至る3つのステップである、「経験」「自己理解」「自己調整」の視点に沿って各学部1つずつ授業を提案した。“知的障害のある児童生徒にとっての、学びの自己調整の姿とは？”という点に視点を定め、参加者とともに意見交換を行った。 12月：追跡調査 6月の公開研究会への参加者を対象に追跡調査を行い、本校で発信した内容に対する各校での活用状況や、校内での情報共有の進捗などを把握した。 <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習者自身による学びの調整」を引き出すための12年間の連続的な学びを形成するうえで、「経験」「自己理解」「自己調整」の3つのステップを意識して授業づくりを行うことで、段階的に子供たちが学びを調整する姿を引き出すことができた。 知的障害のある児童生徒にとっての「学習者自身による学びの調整」を授業づくりに効果的に取り入れる5つの視点として、「意欲」「経験」「行動」「選択」「調整」に整理を行い、授業づくりに生かすことができた。 授業づくりのプロセスとして、個々の児童生徒の実態を十分に把握することを出発点とすることで、授業改善ならびに児童生徒の学びをより豊かにする効果があることが示唆された。特に、個別の学習履歴を基に各教科の資質・能力をベースに学習情報のデータベース化を図り、実態を可視化、共有化することが、教師間で授業づくりを進めるうえでの根拠となり、授業づくりの意見交換がより活性化する効果が確認された。 追跡調査により、他校の実践事例として、学習情報のデータベース化に取り組む実践事例や、「学習者自身による学びの調整に至る3つのステップ」を意図した授業実践に取り組む事例など、発信内容を受けて、自校の取組に還元しようとする事例が見られた。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。